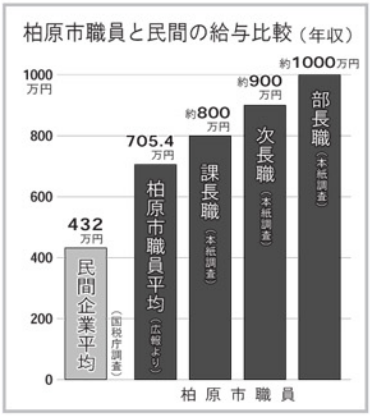
望まれる人道的市政

職員は保護され業者は使い捨て

業者コスト以上に市職員コスト削減せよ

柏原市の財政は、すでの緊急事態。家庭ゴミを入札制にした理由の一つも「経済性」だ。しかし、業者のコストは削減しても、高すぎる職員の給与の引き下げ、多すぎる職員数の削減など市役所内の改革は遅々として進まない。



大阪府下の自治体のなかでも、柏原市の「ラスパイレス指数」（職員の給与の高さを示す）は上から数えたほうが早く、また、職員数も隣の羽曳野市が約十一万人の人口で五百六十人であるのに、約七万五千人の柏原市は六百九十人もいる（嘱託、アルバイト除く）。もちろん、職員の多くは真面目に働いており、中には給与以上の働きをしている人もいるだろう。

しかし、長年にわたり直営業務の半分の委託料で二倍の仕事をこなし、地域の環境保全及び公衆衛生の向上に尽くしてきた業者を何の補償もなく使い捨て、彼ら市民の税金から給与を得ている市職員は手厚く保護されるというのは人道的な市政とは言えない。

業者は使い捨て　自らは高給取り

今回の入札で落札できなかった業者は当然のことながら廃業せざるを得ない。従業員は解雇、パッカー車も廃車。業者だけに精神的、経済的に大きな損失を受けさせ、「コストが下がった」というのでは、行政としての誇りはどこにあるのか。

「民間だから補償する必要はない」というのは、弱者への責任転嫁である。法的な問題もさりながら、より道義的な問題として市政のあり方が問われる。

指名業者の選定に関わった市の幹部職員はみな高給取りである。公務員の給与が民間に比べて高いのは、柏原市に限らないが、それでも部長職で年収約一千万円、職員の平均年収が約七百五万円というのは、民間企業で働く会社員の二倍。

セクハラ職員もクビにならず

それでは、彼らの職員給与はどこから出ているのか。いうまでもなく、市民の血税だ。出入り業者はコスト削減で叩かれ、ギリギリの生活を強いられる。それでも税金は納めているのである。職員にそういう自覚があれば、今回のような非人道的な入札制度は導入できないはずだ。

その公務員は法律で過剰保護されている。民間はどんなに頑張ってもいつクビになるかわからない厳しい世界だが、公務員は犯罪を犯さない限りクビにならない。柏原市ではセクハラで訴えられた職員でさえ職場に残っているという話もあり、「市役所は伏魔殿」という声もあるほど。

家庭ゴミの収集業務を黙々と代行してきた業者は、財政状況を悪化させたのではなく、むしろ最大級の貢献をしてきたといっていい。改めるべきは、行政の〝肥満体質〟である。

私たちの主張

市民に支持される財政改革のために

六月の本会議で自由民主党政新会の田中秀昭議員が、柏原市行財政健全化戦略（素案）にもとずき「今後五年間で約三十一億円の財源不足が見込まれ、平成二十四年度決算では早期健全化基準を超えてしまう」ことに関して質問した。柏原市の将来を見据えた良い質問だ。

財政の足を引っ張る柏原病院、また毎月一千万円の赤字と言われる「サンヒル柏原」の問題は抜本的対策が必要だ。

財政改革には、市民が痛みを覚悟しなければならない場合もある。そのことは、賢明な柏原市民はわかっている。ただし条件が二つある。市に不正がないことと、議員や市職員が率先して痛みを分かち合うことだ。

大阪府の橋下知事が府民に支持されているは、自らも含め議員や職員の報酬を大幅にカットしたため。同様に市の人員削減・コスト削減に取り組む横浜市、岐阜県高山市、鹿児島県阿久根市などでも市民に支持される改革が進んでいる。

他の自治体に比べ職員数が多く、談合事件や入札疑惑、職員の不祥事が起こる柏原市で市民の支持が得られないは当然だ。

柏原市でまずしなければならないのは、不正疑惑の解明。そして、議員や職員コストの削減だ。たとえば、議員が十人減れば一億円近く、職員の給与を十％カットすれば、はるかそれ以上の財源が生まれるのだ。

はまうら佳子の元気が出るコラム

先日七回忌を終えた亡夫・浜浦亀蔵は、多芸多才で趣味やコレクションが多く、ワインもその一つでした。

平成18年の12月、岡本市長から電話で「柏原病院の関係で必要だから亀蔵さんのワインを譲ってほしい」という申し出がありました。当時は、岡本市長をクリーンな政治家だと思っていましたし、柏原の役に立つのならと私は快諾しました。すぐに辰巳副市長が、翌年3月には岡本市長がわざわざ拙宅へやってきて、ワインを選んで持っていきました。

後日、岡本市長から「ワインが大変役に立った。ご主人の霊前にお礼を言っておいて」と電話がありました。

ワインに詳しくない私は、せいぜい1本1～2万円だろうと思っていたのですが、第二次世界大戦前に製造された希少価値があるとびきり高価なドイツ・ワインであるとが後になってわかりました。ワイン会社のオーナーだった岡本市長には、その価値がよくわかっていたはずです。

その後、岡本市長の独断専行で問題の多い政治手法や、その人となりも徐々にわかってきたので、私は19年7月17日、本人に訣別を宣言しました。

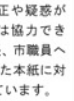
私にワインを見る目がなかったことは諦めますが、自分の息のかかった者を優遇し、弱者を犠牲にする岡本市政を許すわけにはいきません。

もったいない！ひろば

読者のみなさまから、子供の学習机やベビーカーなど「まだまだ使えるので捨てるのはもったいない。どなたか必要な方に差し上げたい」という声をいただいています。今後、このコーナーでそんな声に応えたいと思います。「不要」「欲しい」どちらでもけっこうです。どうぞ「かしわら見張り番」まで情報をお寄せください。

パトロール

六月の本会議で、「市民の会」藤森洋一議員が、家庭ゴミの入札について質問した。「一般競争入札でなく、指名にした理由はなぜか。市側の答えは「信用性のある業者」を指名し「履行を確保」、「公平性・透明性・経済性・競争性」を確保できる、というものだった▼これほど事実と正反対の答弁もめずらしい。指名された大紀は契約した業務を「履行せず」に、市民だけでなく業界の「信用を損なった」業者だ▼それでも指名されたのは、市長の後援会の有力者がオーナーだからという「不公平」疑惑、非公開の指名審査委員会（全委員が市の幹部＝市長の部下）が業者を選定した「不透明」、使い捨てともいえる非人道的「経済性」、最低落札価格が示されており全社が同額で入札、くじ引きという「競争なき」入札だった▼三月議会でこの疑惑を質した浜浦議員は、活動停止処分を受け、六月議会では発言すら許されないという「言論封殺」まで伴った。これが民主主義国家・日本での出来事なのだ！



柏原市は大変な財政危機状態にあります。これを乗り切るためには、市民の努力や、市政への協力も必要になってくるでしょう。

みなさまの声募集中

しかし市政に不正や疑惑があったのでは市民は協力できません。議員や市長、市職員へのご意見や要望、また本紙に対する声もお待ちしています。

info@change-kashiwara.com
〒582-0026 柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502　FAX 072-977-8782